

令和4年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
教務部	努力目標 保護者・地域から信頼される学校作りの推進	①中学校との連携強化をはかり、学校のさらなる認知度アップをはかる。	①ホームページ・学校案内・学校要覧・学校説明会・中学校訪問を通して認知度をアップできたか。	中学校訪問を前年度より19校増やして実施した。HP担当を各学年に配置し、行事ごとに配信できるようにした。学校説明会の依頼が少なかった。	B	HP更新のスピードアップや内容のさらなる充実を図る。学校説明会の依頼を積極的に働きかけ、本校のPRを図る。
	目標設定の理由 さまざまな活動を通じて積極的な情報提供を行い、保護者・地域との連携を深めながら、学校の認知度・理解度アップを目指し、信頼される学校作りに努力する。	②GIGAスクール構想の実現化を図り、教育環境のICT化とその有効活用を進める。	②GIGAスクール構想の実現化を図り、教育環境のICT化とその有効活用を進められたか。	授業でのタブレット使用や、電子黒板を利用した授業を実施した。		さらに多くの授業でICTの利用を促進し、深い学びにつながるよう実施していく。アンケートのICT化を図る。
		③生徒・保護者が入学を望む学校にする。	③入学希望者を増やせたか。	第1回進路希望調査ではスポーツ科は昨年と比べ微増となった。		一日体験学習を魅力あるものにするため、工夫改善を加える。
渉外部	努力目標 教育目標・学則に基づき、校内外の諸機関・諸団体との連携をとり、学校運営を円滑にするとともに、本校の発展に寄与する。	①PTA活動の円滑な運営に寄与できたか。	①PTA諸行事への参加を促進できたか。	学年部会の参加率が低迷している。また、研修会を企画したが参加定員に満たず中止になってしまった。	C	一斉メールの配信を通してPTA行事の開催通知等が確実に保護者に届くようにする。また、学年部会や研修会の内容等を再検討する。
		②同窓会活動の活性化に寄与できたか。	②同窓会総会出席率を向上できたか。	新型コロナウイルス感染症の影響により、未実施の状況が続いている。		総会や同窓会の在り方を再検討していく。
	目標設定の理由 さまざまな活動を通じて積極的な情報提供を行い、保護者・地域との連携を深めながら、学校の認知度・理解度アップを目指す。	③校内外の諸機関・諸団体と連携できたか。	③学校生活を地域・家庭にアピールできたか。	性教育講演会では、保健部会の保護者の方にご参加いただき、本校の性教育の在り方や生徒の様子についてご覧いただいた。また、PTAスクールでは、発表校として本校やPTA活動の様子等についてアピールすることができた。		感染状況等を踏まえながら、保護者の方などにご参加いただけるものについては参加していただき、引き続き本校に関する認知度・理解度を高めていく。
進路指導部	努力目標 広い視野に立った進路目標の設定とその実現に向けた進路指導の実践により社会的・職業的自立を促す。	①3年間を見通した進路指導と、生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア指導の実践。	①それぞれの生徒が社会における自分の役割を意識した進路研究・進路選択ができたか。	それぞれの学年・時期に応じた適切な目標設定のもと、学校内外の資源を活用して生徒が自身の適性を踏まえて進路検討をした。	B	校内の進路研究・進路行事で自分の将来を具体化できない生徒が増えて来ている印象から、校内完結的な進路研究・進路行事の見直し。
		②学年教科を超えて全教員参画による進路指導の実施。	②全教員の情報共有と協力体制により、個に応じたより最適な進路指導を実施できたか。	全体指導と個別指導を適切に組み合わせ、学年・進路・一教員がそれぞれの立場で個々の生徒に寄り添った指導を実施した。		協力体制とともに、個々の教員の指導スキル向上のための手立ての検討。
	目標設定の理由 多様な進路に柔軟に対応できる進路指導体制の構築及び実践により、生徒が社会で自立できるようにするため。	③校内外のデータベース有効活用による進路指導の実践。	③校内外のデータベースを効果的に活用して、より効果的な進路指導を実施できたか。	経験年数の差をデジタルでも補うために、進路指導に関するデータツールを公開し、誰でも指導に利用できる環境で進路指導の実践をした。		外部ツール（ハイスクールオンラインやFINE SYSTEM、コンパスなど）の有効活用を促す。

令和4年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
学習指導部	努力目標 進路実現に向けた学習環境の整備と充実	①新教育課程において観点別評価を滞りなく行うとともに、授業の更なる改善を図る。	①教員が、学習環境（内容・教材）を整え、生徒が授業に集中して取り組む姿が見られたか。	概ね順調に観点別評価がスタートでき、ICTを活用した授業が増え、生徒に分かりやすく提示できるようになった。	B	評価基準やルーブリックを意識した授業づくりを心掛けるとともに、研修などを通じて教員のICT活用力をさらに高め授業に生かしていく。
		②進路実現につながる基礎学力の向上を図る。	②多様な進路に対応するため、基礎基本を重視した授業や課外が実施できたか。	課外授業は概ね計画通りに実施できたが、生徒の基礎基本の定着まではまだまだ時間がかかりそうだ。		図書館の活用やデジタル図書館の導入も係と調整して検討していく。
		③資格・検定試験に積極的にチャレンジさせる。	③受験奨励と合格への充実した指導が行えたか。	検定挑戦が定着化し、ほぼ例年並みの受験者合格者を輩出したが、検定対策の定着までは至らなかった。		より合理的計画的に漢字検定対策ができる余地はないか検討を重ねていく。
生徒指導部	努力目標 未然防止、早期発見・早期対応、適切な対応に努め、危機管理意識を高める。	①いじめを許さない環境と生徒・保護者との信頼関係の構築	①・積極的な認知といじめ解消率の増加 ・適切な対応が図れたか。 ・情報の共有と研修会等が行うことができたか。	・「いじめ情報共有シート」を今年度から採用することができた。 ・対応に遅れもあったが、その都度、研修等で強化が図れた。	B	全職員が「いじめ情報共有シート」に入力し、情報共有や指導の手立ての資料となるようにする。
		②交通事故防止と交通マナー向上。	②・交通事故の減少ができたか。 ・自転車安全利用五則を守り、苦情等が減ったか？ ・駐輪マナーの向上（校内・校外）	・今年度、事故報告8件。自転車利用に関する苦情10件（昨年度と同程度） ・校内駐輪マナー、来賓駐輪場に駐輪する生徒が数人いる。		・現状では、クラスでの注意と臨時街頭指導（交通係の先生）にとどまる。もう少し大きな規模あるいは生徒が自分の課題として取り組めるような工夫が必要か。
		③盗難被害の減少	③・2重ロックの徹底と被害の減少ができたか。	・自転車盗難被害2件（ともに2重ロックなし）、物品1件 ・金銭盗難被害、1年生7件19500円、2年生1件1000円		金銭盗難被害の対策について検討し、定期的な指導をしていく。
	目標設定の理由 生徒指導に係る諸問題は、生徒の生命を脅かす問題に発展する可能性がある。そのことを理解し、日頃の姿勢（未然防止・早期発見）、重大な問題に発展させない（適切な対応）が必要である。	④教育相談体制の充実	④・クラス、学年と情報交換会の連携を深めることができたか。 ・情報交換会からケース会議等の教育相談活動に活かすことができたか。 ・専門機関との連携を図り、生徒へ適切な対応ができたか。	・情報交換会（教育相談係主体）は月1回の密な情報共有ができた。 ・情報交換会発信でクラスや学年への働きかけ、サポートにつながられた。 ・家庭環境が心配される生徒への支援について、情報共有はできた。具体的なサポートと連携のあり方が課題		・情報交換会の活動は時間がかかり、今年度の内容でも負担が大きいので改善していく。 ・家庭環境が心配される生徒への具体的なサポート、連携のあり方を工夫改善していく。

令和4年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
保健安全部	努力目標 基本的な生活習慣の確立、災害時における危険予測回避し、適切な対応に努め、危機管理意識を高める。校内美化活動を推進する。 目標設定の理由 あらゆる教育活動の中で、生徒の生命を脅かす問題に発展する可能性がある。そのことを理解し、日頃から未然防止・早期発見、重大な問題に発展させない、適切な対応が必要である。	①基本的な生活習慣の確立。	①生徒の実態に合わせた保健指導を行い、生活習慣の改善が見られたか。	多数の生徒は基本的な生活習慣を実践しているが、1部の生徒は欠席、遅刻や授業中の居眠りなどが多い。	B	食事・睡眠の必要性や重要性を伝えていく。特に生活習慣の乱れがある生徒には適宜、個別に話しをする。
		②災害時における危険を予測し回避する能力を身につけさせる。	②周りの状況に応じて主体的に行動や対応することができたか。	避難訓練を2回実施し、緊急時の行動確認を行った。実施の際、講義を実施し生徒に災害時の行動についての理解を深めさせた。		避難訓練だけでなく、緊急時にどのような行動を取る必要があるのかを理解できる指導を行っていく。
		③美化活動を推進する。	③主体的に校内美化に取り組まることができたか。	清掃活動は先生方の指導もあり、実施できている。しかし、主体的ではなく先生方の目がなくては取り組まない生徒もみられる。		継続して清掃活動を行って行く。また、主体的に清掃活動に取り組むための工夫が必要である。環境整備の意識を高める取り組みをしていきたい。
特別活動部	努力目標 集団の一員として自主的・積極的に規律を守り、責任を重んじ、相互に協力し合う態度を育成し、自治能力の向上を図る。 目標設定の理由 さまざまな活動を通して、集団の一員としての自覚と、適切な行動をとろうとする姿勢の育成に努める。	①生徒会活動を充実する。	①主体的な活動ができる計画・運営ができたか。	体育祭では、体育委員、生徒会役員、各部活動の生徒が協力し合いながら運営し、生徒が楽しみながら実施することができた。	B	生徒がより主体的に行事に関わることができるよう検討工夫をし、生徒会活動の活性化を図る。
		②委員会活動を充実する。	②委員会活動の実績が向上したか。	各委員会が、関係する行事において連携を図りながら意欲的に活動を行った。		生徒中心の活動には、まだまだなっていない。指示待ちではない活動を促していくための手立てを検討し、実践する。
		③ボランティア活動を充実する。	③社会奉仕の精神を養う活動を実践できたか。	クリーンアップ大作戦を実施し、清掃活動による社会奉仕ができた。		クリーンアップ大作戦の内容をより進化させ、生徒会役員を中心に、学校や地域に対してできるボランティア活動を考え、充実させる。

令和4年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
スポーツ 科	努力目標 スポーツ文化の発展に貢献できる人材の育成 目標設定の理由 専門的な知識と高度な運動技能の習得により、次代のスポーツ人の育成に重点を置く。	①体育・スポーツの指導者・リーダーとしての基礎的な知識や態度を養う。	①理論学習の充実及び生徒自らが考え、判断できる授業が展開できたか。	率先して行動するリーダーシップやそれに伴う判断力が身についた生徒が徐々に増えてきている。	B	リーダーの育成に力を入れ、スポーツ指導者を目指す生徒をさらに増やしていく。
		②運動の理解と合理的な実践により、正しい運動の方法論や実践能力を養う。	②各種目や運動の特性を理解させ、自主的計画的に運動ができるように促した授業が展開できたか。	運動の特性理解はある程度できていた。種目に左右されず、自主的計画的に運動に取り組める生徒が徐々に増えてきている。		持久走や柔道などの種目でも自主的計画的に取り組める態度を今後も養成していく。
		③心身のバランス、個と集団のバランスのとれた人間性を育成する。	③個の役割を明確にし、生徒一人一人が自覚ある行動がとれるような授業を展開できたか。	概ね達成できているが、一部に自覚がない生徒がおり、指導しきれなかった。		授業を通して、公共心と規範意識を高めていけるようなはたらきかけを続けていく。
		④専門的な知識や運動の実践と部活動をリンクさせ、より一層高度な実践能力を身に付けさせる。	④意図的・計画的に専門種目の技能、戦術眼、体力、精神力、モラルやマナーの向上に努める事ができたか。	概ね達成できているが、失敗の原因分析がうまくできず、自己の向上につなげられない生徒が見られた。		失敗の原因を外にばかり求めず、自らを省みる態度を養成していく。
国語	努力目標 学力の向上と読書による豊かな心の育成	①変化の激しい時代に適応する総合的な国語力の向上と、基礎基本の定着を図る授業内容を研究する。	①生徒の希望進路実現に向けた学力を身につけさせる授業を展開できたか。	ループリックを意識し、ICTも活用して授業を見直すことができたが、基礎基本の定着までは至らなかった。	B	わかりやすい授業はもちろんのこと、的確な表現力を向上させる授業に発展させていきたい。
		②読書に親しむ態度を育成する。	②読書の習慣を養う指導ができたか。	読書感想文コンクールは実施できたが、不読率の改善などまだ課題は残っている。		図書館の活用やデジタル図書館の導入も係と調整して検討していく。
		③漢検受験奨励と合格に向けた指導を充実させる。	③漢検の合格者数を増加させることができたか。	漢字検定受験者も合格者もほぼ例年と同様だった。		もう少し計画的に漢検対策ができる余地はないか検討を重ねていく。

令和4年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

		努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
地公	数学	努力目標 基礎的な知識の定着	①生徒の実態に合った授業を展開する。	①わかりやすい授業を実施し、学習に意欲的に取り組ませられたか。	図を用いた解説・映像資料の活用・発問の工夫などを行った。新課程では振り返りシートを用いたが、取り組みに差がある。	B	新課程での主体的態度点の評価方法について、生徒の実態に見合った情報共有及び、教材開発・共有が必要である。
			②適切な試験問題を作成する。	②基礎・基本を評価できる試験を実施できたか。	授業内容の知識に関する問題を作成。さらには、資料や問い方を工夫した思考力を問う問題を出題。		思考力を問う問題は、作成に時間がかかる。新課程への移行にあたって、科内での共有と精選が今後の課題である。
			③教科指導の充実を図る。	③指導案や授業プリントを科内で共有することができたか。	教材については各自で情報交換できた。データは科の共有フォルダに保管している。		科内で積極的に情報交換や、意見交換をしていく。
	理科	努力目標 習熟度と幅広い進路に応じた授業展開	①生徒に考えさせる授業の展開を図る。	①問題を解くことへの関心・意欲を引き出し、試行錯誤しながらも粘り強く問題の解決に取り組ませることができたか。	定期テスト問題に思考力・判断力・表現力の評価を意図した問題作成。	B	日々の授業にも考える要素を取り入れた授業について実践するべく、科内の課題としていく。
			②基礎基本の定着を徹底する。	②分かる授業の実践と基礎基本の反復練習に取り組ませることができたか。	自作プリントの活用などによる生徒の実態に合わせた指導実践。		家庭学習時間の確保にどう取り組ませ、学び直しについての指導法を研究していく。
			③普通科・スポーツ科それぞれの生徒に対応した指導に努める。	③習熟度別授業・少人数指導で、生徒の到達度に合わせた授業できたか。	習熟度別クラス編成や少人数制指導の実践。		習熟度クラス編成の方法・人数・時期などの検討し、生徒の個別最適な学習につながるような授業形態を実施する。
	理科	努力目標 自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的な自然観を育成する。	①基礎学力を定着させる。	①日頃の授業において、小テストや課題を行い全体的に基礎学力の定着が図れたか。	昨年より赤点者の数は減っていた。小テストなどの実施で、個々の基礎学力の定着を図れた。	B	授業だけでは限界があるので、家庭学習の定着を図る取り組みをより一層図る。
			②自然科学における興味関心の向上を図る。	②実験の考察や感想がしっかり書けるよう指導できたか。	新型コロナ感染防止を図りながら、効果的な生徒実験や演示実験を実施した。考察や感想が単純に終わらせる生徒がみられた。		文章表現の指導の工夫を図り、与えられた時間の中で、より多くの実験の実施を考える。
			③新教育課程における評価方法の構築を図る。	③新教育課程における評価方法の構築が図れたか。	各科目の担当者が評価方法を考え、問題なく評価することができた。		新教育課程における評価方法を、より一層研究し、生徒一人ひとりの多面的な評価をしていく。

令和4年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

		努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
各教科	保体	努力目標 明るく豊かで活力ある生活を営む実践力と態度の育成	①生涯にわたって計画的に運動・スポーツに親しむ事のできる能力を育成する。	①自ら率先して運動やスポーツに取り組む実践力や態度を養う事ができたか。	自身の好きな種目には積極的に取り組み、準備なども意欲的に取り組む姿勢が見られた。	B	生徒が消極的になりがちな種目を意欲的に取り組めるような授業方法を検討するだけでなく、種目の精選をしていく。
			②健康の保持増進のための実践力や態度を育成する。	②「健康であること」の意義を理解し、それについての正しい意思決定や行動選択のできる体を養う事ができたか。	大部分の生徒はしっかりと活動し、十分な運動量を確保していた。		体力を高める補強運動を取り入れるなどの工夫により、さらに体力向上・健康保持を促進していく。
			③心身共に逞しい人材を育成する。	③体育・スポーツ実践を通じて、目標や課題解決に自ら取り組むことのできる態度を涵養することができたか。	目標設定をして取り組む生徒がいる一方、その場の楽しさをだけを優先して活動する生徒も一部見られた。		教材を工夫し、個人やチームで目標を持って授業に臨めるよう工夫を行う。
	芸術	努力目標 生徒一人ひとりの感性を高める授業の推進	①様々な音楽や美術の芸術作品に触れ基礎知識を身につけさせる。	①多種多様な芸術を鑑賞したり活動したりする中で、芸術の基礎知識・理解力を高めることができたか。	様々な曲や作品を通して、基礎知識を身につけることができた。	B	より多くの芸術作品に触れ、生徒の興味関心を高めながら基礎知識や理解力を高めさせる。
			②個々の進度に応じた教材を選択させ、一人ひとりの技術力・表現力を向上させる。	②生徒の進度に合わせ、一人ひとりに合った助言をし、多面的な視点で指導することができたか。	生徒の実態に応じた題材選択や指導ができた。その結果技術力や表現力が高まった。		生徒がやりがいや芸術の楽しみを感じながら、技術力や表現力を高められるよう、展開や声かけを工夫する。
			③表現力を向上させる授業の工夫をする。	③各自のアイディアを活かし、生徒の表現力の向上につながる支援ができたか。	生徒からアイディアを引き出し、それを活かして表現することができた。		生徒が豊富なアイディアを出せるような工夫をし、表現力を高められるような適切な指導をする。

令和４年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
英語	努力目標 基礎的英語力の向上	①基礎基本を定着させる。	①分かりやすい授業を実践し、週末課題、長期休業課題、小テストなどを通して基礎的な文法事項・語彙の定着が図れたか。	普通科やコーチングコースを中心に、週末課題を出したり単語テスト等を実施することができた。定着は難しく、さらに検討が必要である。	B	週末課題をさらに充実させ、基礎の定着を図る。
		②生徒の学力・進路に対応した指導をする。	②習熟度別授業等を通して生徒の実情に合わせた授業・課外授業が展開できたか。	3年の課外とスポーツ科で実施できた。		来年度も継続して実施する。習熟度を実施していない普通科の授業の工夫を行う。
		③言語活動を通して、表現する力を伸ばす。	③平易な文法や語彙を用いて、身近な話題について話すこと、書くことができたか。	クラスによって実施することができた。定期テストで書くことの評価ができた。		苦手な生徒が多いので、授業を工夫し、表現力を高めるようにしたい。
	努力目標 生活を主体的に営むために必要な知識と技術の習得	①興味・関心を持たせ、学習に取り組ませる。	①生徒の興味・関心が高まるよう題材に工夫できたか。	新課程における題材の工夫を実施できた。	B	生徒の興味関心が高められる題材を工夫し、思考力・判断力・表現力を高められるよう、授業改善に努める。
		②基礎・基本となる知識・技術を習得させる。	②少人数授業を展開し、実技テスト等を通して、知識・技術の定着が図れたか。	少人数授業（20人）、家庭基礎、フードデザイン時の調理実習において個別実習を展開。計画的な実技テストの実施		少人数授業を生かし、さらに各自の知識・技能が向上できるよう授業改善工夫を行う。
		③安全に配慮して実習を行わせる。	③授業に適した環境を整備し、安全に実習を実施することができたか。	安全に配慮した実習を展開できた。		経年劣化している物品や改善が必要な設備を把握し、計画的に学習環境が整備できるよう働きかける。
	努力目標 情報モラルの習得と各ソフトウェアの操作能力の向上	①情報モラル・マナーを身につけさせる。	①情報モラルやマナーに関して自分事として捉えさせ、規範意識を向上させられたか。	教科書に沿った指導実践。	B	生徒にとって身近な題材を用いた、興味関心を引く授業実践をしていく。
		②各種ソフトウェア(Word、Excel)の基本操作の習得を図る。	②実習を通して各種ソフトウェアを使いこなせるようになったか。	十分な実技演習の時間の確保。		教科書の内容と実技指導のバランスを検討していく。
		③ワープロ検定・情報処理検定の受検を奨励し、自身の操作スキルに合った級の合格に向けて取り組ませる。	③個の操作スキルに応じたより最適な指導を実施できたか。	検定試験受験級を指標にした個々の操作スキルに応じた実技指導。		GIGAタブレットを活用した指導法の研究と研修を実践していく。